

ワークショップ

活動拠点を考えよう!

名城大学建築学科 谷田真

【第1回ワークショップ_テーマ】

活動拠点整備は必要ですか？

今のままでは駄目なのですか？

【わたしの立ち位置】

- 活動拠点整備は必要でしょ！
- 場がもつチカラを信じている

【自己紹介】

- ファニチャー+α がもつチカラ
- ものづくり(プロセス) がもつチカラ



TANIDA
Laboratory

経歴

谷田 真 / Makoto TANIDA

- 1971 名古屋市生まれ
- 1995 名城大学建築学科卒業
- 1997 名古屋大学大学院修士課程 修了
- 1997 環境デザイン研究所
- 2003 名古屋大学大学院博士課程・工学博士
- 2004 名城大学理工学部建築学科講師
- 2008 University of East London 在外研究員
- 2010 名城大学理工学部建築学科 准教授

島カフェ・ツリーファニチャー



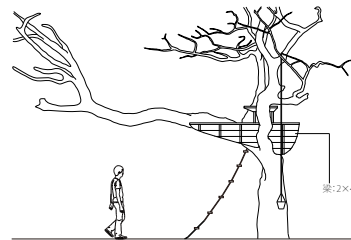
島Cafe・tree furniture



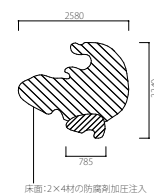
セルフビルドというかたちは、まさに幸せのかたちではないだろうか。必ずしも必要ではないが、そこにあったら毎日の生活が楽しくなるもの。日常のなかのふとした一瞬を演出する装置として、島Cafe・treefurnitureをつくった。

佐久島の、海が見える高台にある一本の榎(えのき)の上に、3人ほどがすわることのできる面を構成する。それはシェルターのようなおおげさなものではなく、島の人たちと観光客をそっと出迎える。

2×4材をスノコのようにして組み上げた島Cafe・treefurnitureは、木を傷つけないようにかたちを探っていたら佐久島のかたちに近づいた。見下ろすと、佐久島の海に潜っていけるよう。視線を上げれば、そこにはのどかな島の緑と 空気、どこまでもつづく海が見渡せる。

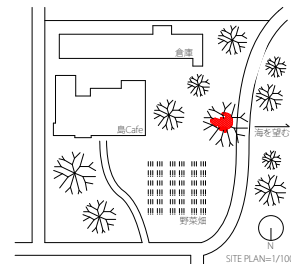


梁:2×4材の防霉剤加工注入



床面:2×4材の防霉剤加工注入

SCALE=1/100

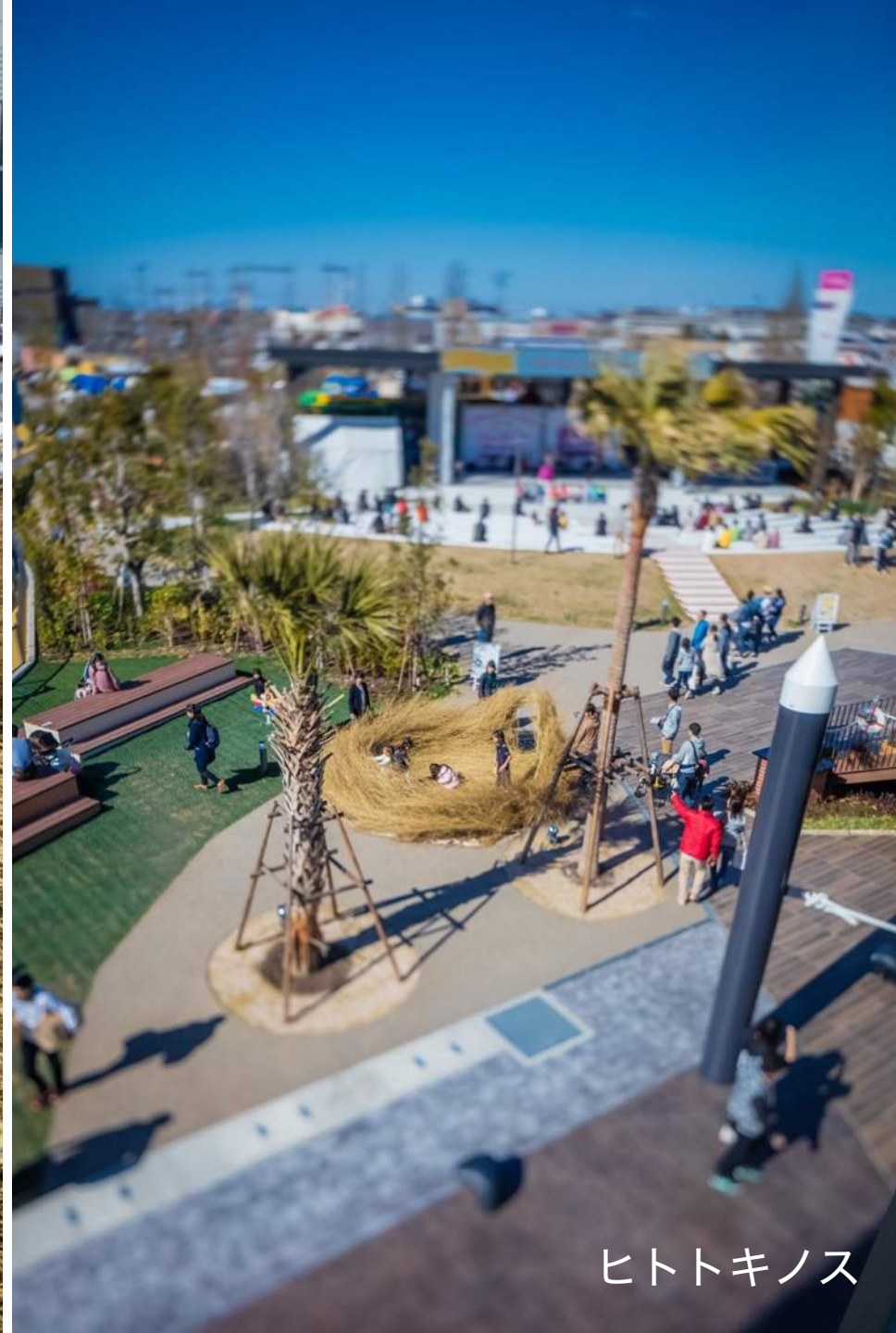


SITE PLAN=1/100



ヒトキノス





ヒトキノス





チョイス



チョイス



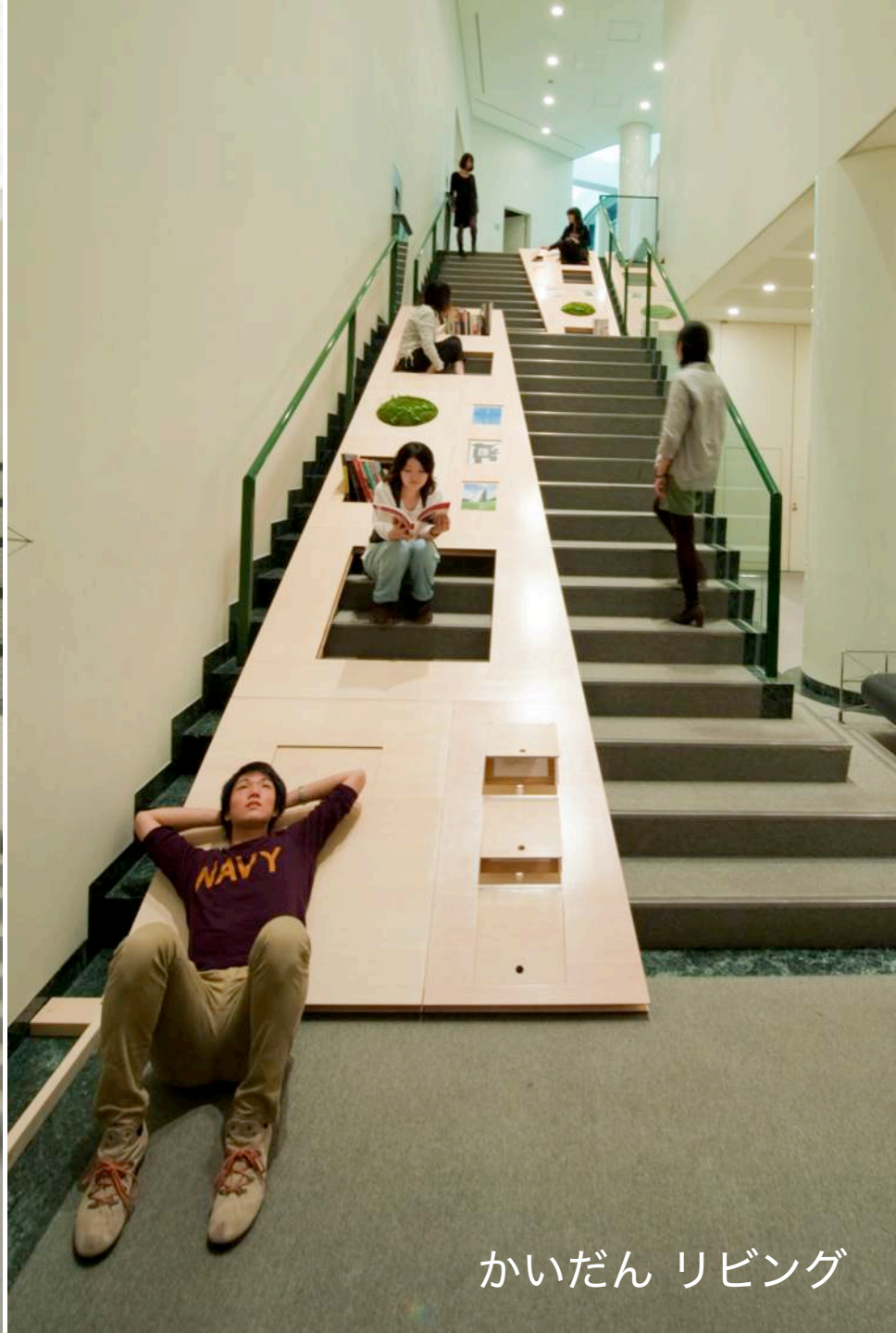
チョイス







かいだん リビング



かいだん リビング



かいだん リビング



どこでも・何にでも・ファニチャー

実店舗の中の商品を、遠くから運ぶより
送料は実店舗の近くに、実店舗の平置き棚に置いてみることにしました。
送料の心配も減り、平置きには実店舗の在庫が足りません。
一人ひとりの力で、本を売りたい、おもしろい、新しい商品を、みんなが
自分の手で運んでほしい。



BOOK WORM



BOOKS KINOKUNIYA

紀伊國屋書店



BOOK WORM



BOOK WORM













多文化共生社会を意識した 学生たちによる 地域コミュニティ環境づくり

UR 知立団地中央商店街を舞台として
愛知県知立市昭和 9

本プロジェクトは、1960年代に竣工し長い歴史を持つ、住戸数約2,800戸の巨大な知立団地を舞台に、大学研究室に所属する学生たちが主体になって進めている取り組みである(図1-2)。団地内では、高齢化が進み、空き室率が高まると同時に、団地周辺地域に集積する自動車関連産業に従事する外国人労働者たちが多く入居している。そんな状況下で外国人と日本人とのコミュニケーション不足が顕在化しており、学生たちは社会的課題のひとつとして、コミュニティ環境づくりへの取り組みを開始した。

初年度となる本取り組みでは、step1「団地を知る」、step2「場をつくる」、step3「仲間とつながる」と段階を踏みながら、学生主体のワークショップを軸に展開した(図1-1)。

多文化共生社会を意識した持続的・地域コミュニティ環境づくりを目指し、本取り組みで獲得した知見や人的資源を、次の世代の学生たちに渡し、さらなる展開への期待を込めて、本稿にその概要を整理した。

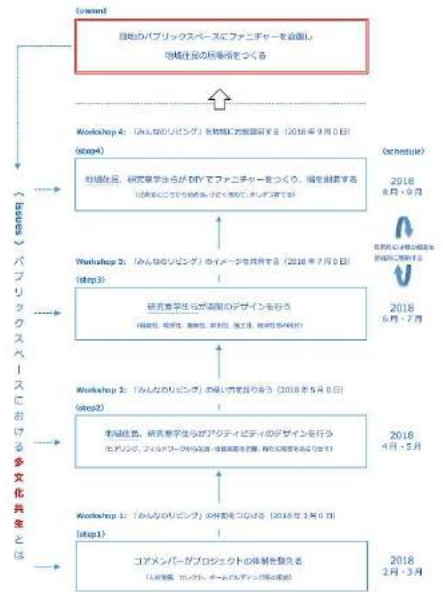
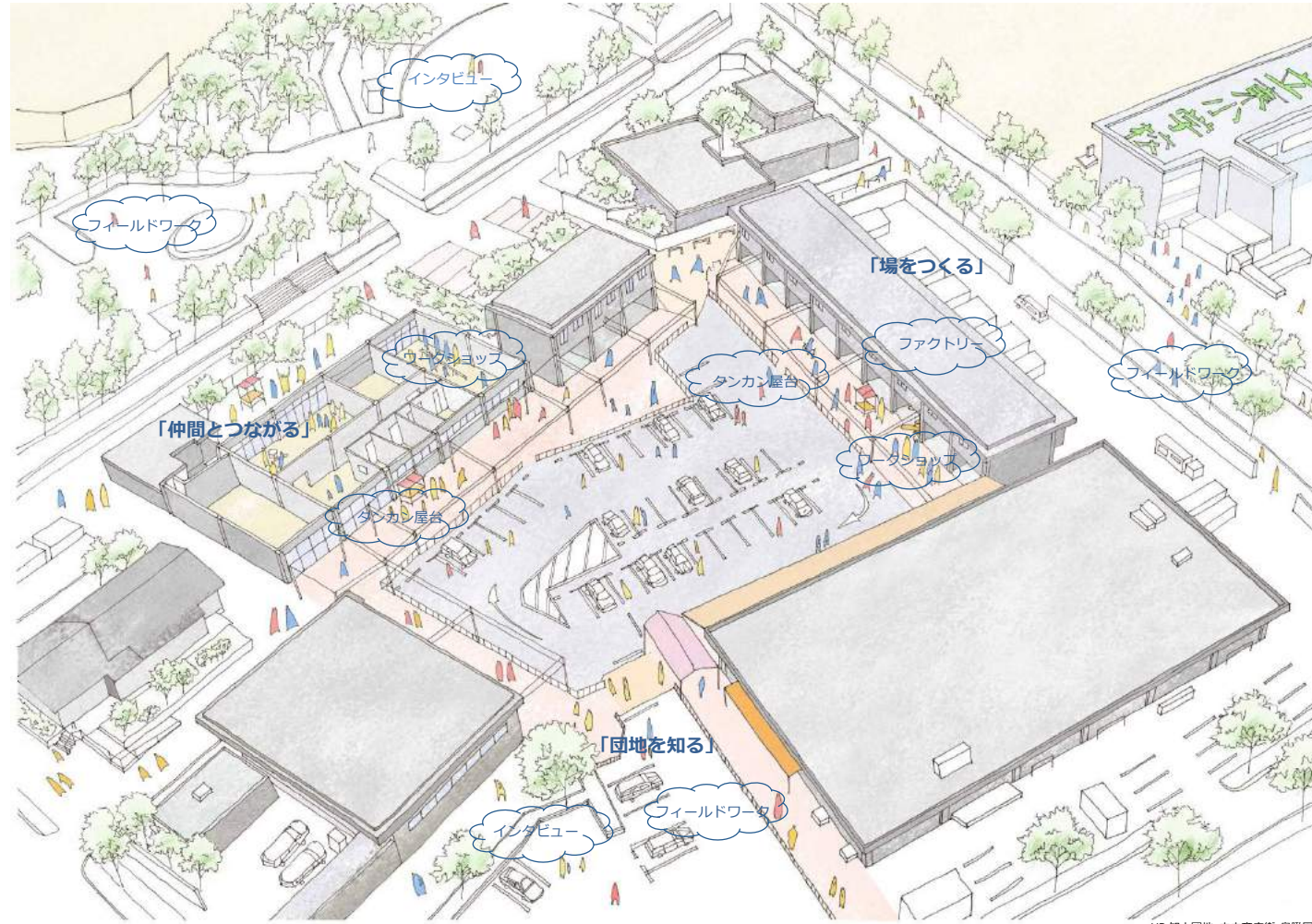


図1-1. プロジェクト・タイムライン



UR 知立団地 中央商店街 鳥瞰図

Step1 「団地を知る」

団地内で外国人居住者がどんな日常を送っているのか、文献調査、フィールドワーク、インタビューを通して概観した。

特に外国人と日本人のお互いへの意識に注目することで、多文化共生社会を目指す上での課題や、地域コミュニティ環境づくりの必要性を示した。

Step2 「場をつくる」

地域コミュニティ環境づくりのひとつとして、外国人と日本人が交流する契機となる「場」を団地中央商店街内に仕掛けた。

仮設的な「場」をつくる際、学生たちを軸に、地域住民らと一緒に組み立てること、つくるプロセスを地域に見せることに力点を置いた。

Step3 「仲間とつながる」

外国人と日本人が持続的にコミュニケーションを取れる関係性の構築に向け、4回のワークショップを実施した。

毎回、前回のワークショップの振り返りをしながら、段階的にメンバー同士が強固な繋がりになるようワークショップ内容をデザイン。ここで繋がった仲間たちと、次のステップへ進む。

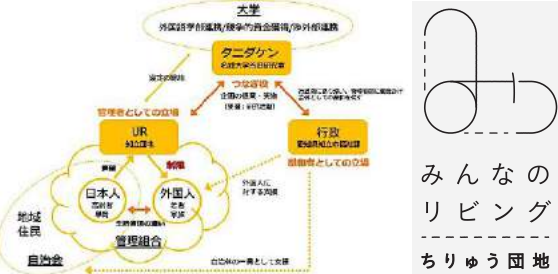


図1-2. 関係団体・相関図

みんなの
リビング
ちりゅう団地

Step1 「団地を知る」 外国人居住者の居場所とは

プロジェクトを始めるにあたり、団地内における「外国人居住者の居場所」という観点で、背景から実態まで調査した。

最初に、日本における外国人労働者をめぐる法制度(図2-1)、ブラジルからの移民と知立団地との関連性について把握した(図2-2)。

次に、地域住民らとともにフィールドワークを実施し、その結果、外国人と日本人の間でのコミュニティの分断の一端を垣間見た。

最後にインタビューを通して(図2-3)、外国人と日本人、お互いにコミュニケーションは取りたいと思いがながら、そのキッカケが見出しにくいことが課題であると、我々は考えるに至った。



図2-1. 外国人労働者と日本

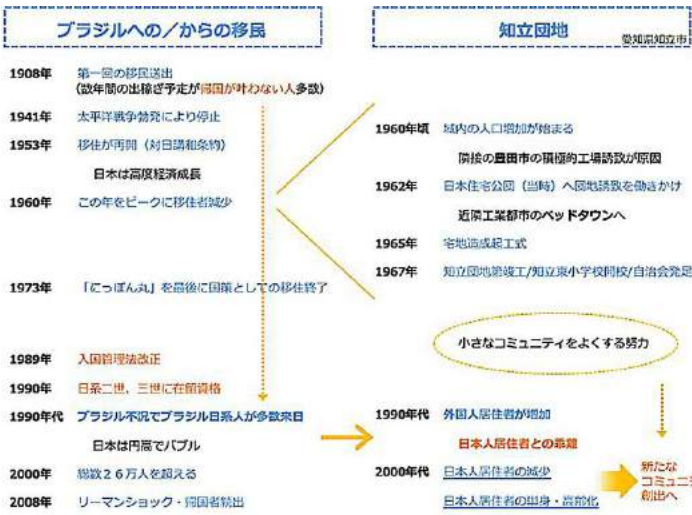


図2-2. 移民と知立団地

外国人と日本人へのインタビューを通して考える (下図は記録用ビデオ映像からの抜粋)



団地内に住む外国人と日本人、数名にインタビューを実施。個人レベルで会話をすると、皆、穏やかに話をしてくれた。

外国人と日本人、お互いに気にはなっており、可能ならばコミュニケーションを取りたいと思っていることがわかった。しかし、そのキッカケが見出しにくいことが課題だと考えた。

地域住民+学生によるフィールドワーク 外国人と日本人との「セグリゲーション」*1を垣間見る

実地日時：2018年4月5日(木) 14:00~15:00、4月11日(水) 14:00~16:30、4月12日(木) 16:00~17:00

*1 同種がグループをつくり、異なったグループと意図的に空間的相違を維持すること

A-1 マルズ



- 外国人と日本人が混在する唯一の場
- ★ブラジル人が多く、品名も英語やポルトガル語で書かれていた
- 知立団地の中で一番にぎわっていた
- 店舗の表記は見やすく書かれていた
- ▲正面のシャッターが閉まっていた(雨のため)
- ▲道路は狭い

A-2 集合団



- 日本人のみが利用しているイメージ
- ▲会所と分がりにくく人が寄ってこなさそう
- ▲薄暗いため入りにくい
- ▲人があまり寄ってこなさそう

A-3 アーケード下



- 外国人家族と日本の高齢者が行き交うイメージ
- 歩道幅が広い(屋外ベンチを置いても広く使えそう)
- 雨がしのげる
- 日本人と外国人が仲良く話していた
- ▲雑音が多い
- ▲ほこりが目立ち薄暗いイメージ
- ▲シャッターが閉まっているとき暗い
- ▲自転車置き場が使われていない
- ▲ベンチがない

A-4 もやいこハウス



- 日本人のみが利用。中は見えるが閉鎖感が強い。
- ▲もやいこハウスの看板をもっとおしゃれに
- ▲シャッターが閉まっているとき何のための場所かわからない
- ▲やってくる時間帯が少なく、需要がありません



①70以上の住棟で構成される巨大団地

A-5 駐車場



- 外国人と日本人は交わりど接点なし
- ▲がたがひでつづり入りやすく、使いにくそう
- ▲シャッターが閉まっているとき車の出入りが多い
- ▲広くも狭くもない
- ▲出口が狭い



②外国人経営の店のみ活気ある商店街

B-1 看板



- 外国人に向けた禁止メッセージ目立つ
- ★ブラジル人向けにポルトガル語で書かれていた
- ▲注意喚起が多すぎる(アスの要がない)
- ▲線に近い場所に設置されてもついでない



③人影の少ないアーケード

C-1 道端



- 整然とした道管理の強さが伺える
- 歩道と車道がきちんと分かれている
- ▲道路脇に黄色のポールが多数並んでいる
- ▲側溝に蓋がない



④外国人の子供が遊ぶあり

D-1 団地周辺



- 禁止メッセージ多し
- ★中央は交通量が多い印象
- 道が特選で、緑がある
- ▲トイレが汚く、暗く、最小限の大きさで、誰も使わなそう



⑤周辺は強い管理規制を感じる



- ★...知立団地ならではの特色
- ...良いところ
- ▲...改善したほうが良いところ

E-1 公園



- 外国人が集る風景を日本人は不安視
- ★ブラジル人のパーティーを生かしたい
- 広くて、幅広い年代の地域の人が集まれる
- 公園、遊具は綺麗、点在している
- イベントが企画できそう
- ▲ゴミが目についた
- ▲人が少ない

D-2 ゴミ置場



- 日本人が外国人に不信感を抱く要因のひとつ
- 周りにいる日本人が細かく分別していた
- ▲ゴミ置場ではない所にゴミ袋が出ていた
- ▲住宅の量の割に1つ1つ小さい
- ▲別物がちゃんと理解できているのか

D-2 団地周辺



- ★中央は交通量が多い印象
- 道が特選で、緑がある
- ▲トイレが汚く、暗く、最小限の大きさで、誰も使わなそう

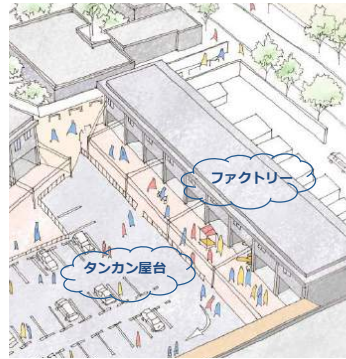


Step2 「場をつくる」コミュニケーションのキッカケとして

Step1で見出した課題に対し、解決策のひとつとして、外国人と日本人がコミュニケーションを取るキッカケとなる「場」を、団地内で唯一、外国人と日本人が混在する状況が見られた団地中央商店街内に仕掛けることとした。

一つ目は、みんなで組み立て・解体可能な「タンカン屋台」。地域住民らが、ちょっとした企画を実施する際、簡単に展開でき、同時に華やかな場が演出できる屋台をデザインした。学生たちが中心となり、みんなで一緒に組み立てることで、コミュニケーションの醸成も狙っている。

二つ目は、様々な人が恒常的に企画を持ち込み、交流が図れる場として「ファクトリー」を整備。オープン前から「場」に関心を持ってもらうため、つくるプロセスを地域に見せ、活動・運営への盛り上がりにつなげた。

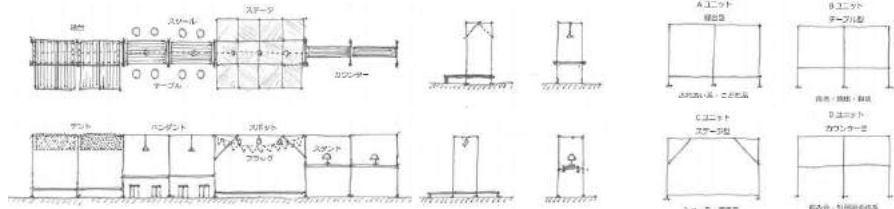
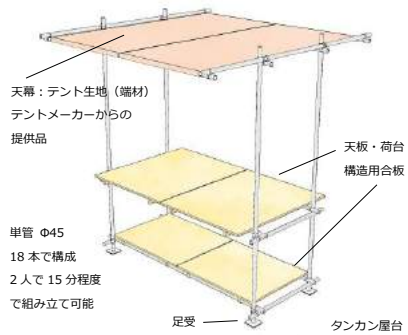


中央商店街 鳥取県

みんなで組み立てる「タンカン屋台」

ちょっとした企画を実施したいと思った時、その思いを後押ししてくれる楽しい仕掛けとして、「タンカン屋台」をデザインした。建築資材である単管を主構造とし、2人で15分程度で組み立て、解体可能な、仮設屋台である。

最初に学生たちが「タンカン屋台」の組み立て方を実演し、地域住民に指導。その後、彼らのみで組み立て、解体できる状況をつくった。普段は、団地中央商店街内に置かれ、必要な時に持ち出して、一時的なコミュニティの場を創出する。



タンカン屋台4台セットのイメージ

4つのタイプ (緑台・テーブル・ステージ・カウンター) で構成



①学生たちが組み立て方を実演しながら、地域住民に指導。自分たちで組み立て可能な状況をつくる。



②タンカンは団地中央商店街内に置かれ、必要な時に持ち出して組み立てる。



③タンカン屋台を使ってワークショップを実施。外国人と日本人、老若男女が混じり合う。

つくるプロセスの見える化「ファクトリー」

外国人と日本人のコミュニケーションを誘発する場として、団地中央商店街内の空き店舗を期間限定でレンタルし、様々なひとが企画を持ち込み、交流を図る場として「ファクトリー」を整備した。

整備中から地域住民に関心を持ってもらう為、つくるプロセスをすべて公開し、ファニチャー等が組み上がっていく姿を皆で共有した。また街行くひとにも積極的に声掛けを行い、竣工後の地域プレイヤーを見出す契機とした。

オープン後は、学生たち主体で分担して企画運営を進め、子どもたち中心に多くの外国人が立ち寄ってくれた。



活動方針(求心型+発信型)

月間シフト表



①部材の運び込みと組み立て準備。シャッターを上げ、街行く人に公開する。



②壁一面を黒板塗装。みんなの思いを記すメッセージボードとする。



③通りすがりの子どもたちが作業風景を覗き込む。



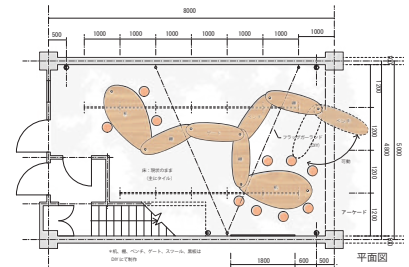
④地域住民、外部協力者らが見守る中、学生たちが組み上げる。



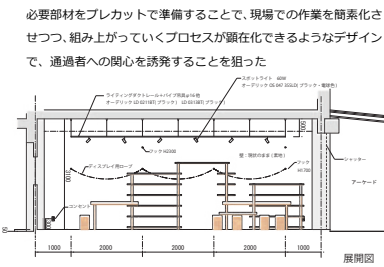
⑤運営に向けての準備。サイン、スツール、ガーランドなどにより演出。



⑥作業プロセスに関心をもってくれていた人たちが立ち寄ってくれる。外国人の姿も多かった。



ファクトリー 平面図



ファクトリー 展開図

必要部材をプレカットで準備することで、現場での作業を簡素化させつつ、組み上がっていくプロセスが顕在化できるようなデザインで、通過者への関心を誘発することを狙った



Step3 「仲間とつながる」

外国人と日本人がリアルに出会い、持続的なコミュニケーションが取れる関係へとつながることを目的に、4回のワークショップを、団地中央商店街内にある公民館で、毎回2時間実施した。各回のテーマは、①仲間をつくらう、②使い方を語り合う、③どんなデザイン？④お披露目リビング、である。それぞれの概要を以下に記す。

ワークショップ① 仲間をつくらう！ (2018年4月22日)

第1回ワークショップでは、会場にて、最初にプロジェクトの概要説明を行ったのち、アイスブレイクとして車座になって自己紹介、チーム分けを行う。次にちよこっと現場体感として、団地周辺のフィールドワークを実施した。会場に戻ってきてからは、「ここで、こんなことやりたい！」「わたし、こんなことでなら役に立てるかも？」といったお題に答えてもらい、最後に貼り出し、発表してもらった。



居場所わいわいDIY W.S.スタート



学生を軸にグループワーク

学生による発表



みんながやりたいこと、できることが集る

ワークショップ② 使い方を語り合う (2018年6月10)

第2回ワークショップでは、最初に前回のふりかえりをし、その後グループ分けを行った。グループワークでは、「団地に『みんなのリビング(居場所)』ができれば、こんな使い方・過ごし方をしてみたいな！」をテーマにディスカッションを進めてもらった。最後に発表、共有して終わる。

第1回目から連続参加の方もおられ、徐々にではあるが、持続的なコミュニケーションが取れる関係が構築でき始める



W.S.②おしながき

商店会から届いた要望書



車座で全員が一同に会す

学生を軸にグループワーク



シートにまとめるための準備



ベスト3の抽出

発表と共有

ワークショップ③ どんなデザイン？ (2018年8月5日)

第3回ワークショップでは、前回同様、最初にこれまでの振り返りをした後、学生たちがデザインした4つの居場所ユニット(タンカン屋台)を、1/20模型と図面を使って説明。

分科会と称し、各グループでこの居場所ユニットの使い方を考えてもらった。参加者にリアルな行動へと移してもらうために、「おためしアクションシート」を準備し、企画の目的や面白い、活動内容、必要なタスク、備品リスト、準備スケジュール等を記してもらった。

次のワークショップに向けて、お互いに連絡を取り合う段取りとなり、より強固なメンバー同士の関係性が生まれた。



W.S.③おしながき

4つの居場所ユニットをモデルで紹介



学生を軸にグループワーク



発表と共有

おためしアクションシートの作成

ワークショップ④ お披露目リビング (2018年10月7日)

第4回ワークショップでは、前回のアクションシートでまとめられた4つの企画を、各担当グループが事前準備。当日は「お披露目リビング」と称し、以下の写真に示す4つの企画を展開した。普段は近くに居ても出会わない外国人と日本人が場を共有し、多文化が共生するコミュニケーションが生まれた。



お披露目リビング フライヤー

KPTふりかえりシート



企画① プチものづくり体験

企画② 流しそめん大会



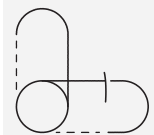
企画③ 多国籍バンド演奏

企画④ ハンドスタンプ

「その先へ」 2019年度～

2019年度は、前年度につながった仲間たちとともに、新たなアクティビティを展開する予定である。

具体的には、団地内にある学童施設を拠点に、外国の子どもたちと本の交換会や母語の本紹介等を実施。子どもを通して、希薄だった外国人と日本の高齢者との接点をつくる。



みんなの
リビング
ちりゅう団地

なぜか昔のお店の看板が...

RC造2階建て長屋

酒 泉屋
LIQUOR-SPOT

おこめ 知立岡地米穀

アーケード

みんなのリビングファクトリー

サインはポルトガル語
との併記が多い

0566-83-4524
090-6466-4971



店舗内
TABELA DE PREÇOS
60 100 300
20 40 100 300
100 200 300 400 500

駐車場

シャッター商店街の一角で「場づくり」
多文化が共生するコミュニケーションのきっかけとして

テント用生地 of 端材を縫製したガーランド

黒板塗装した
メッセージボード

持ち込スクリーン

木軸にすることで
可動が可能



森とWORKSHOP

単管スツール

金針葉樹合板を
プレカット

ほとんどをDIYで作りました!!

暑い...

プロの建築家さんたちから指導を受けながら

女子も頑張る!!!

ゴシゴシゴシ...
とにかくやすりがけ

大学で学んでいる建築スキルを活かす!

疲れたかも...

何をしているのだろ??

サイン

皆、黙々と作業中

へー「みんなのリビング」か。完成したら遊びに来よう



協働作業で結束力を増強する

組立中の単管ヤタイ

大学生のお兄さん

大学生のお姉さん

座り心地は如何ですか?

やってみると意外に簡単ね

老若男女が参加

単管ツール



単管ヤタイ

みんなのリビングファクトリー

知り合いにならば話に参加

あちこちで、話が盛り上がる

いつもよりフランクに話せるなー

作業の後は
和気あいあいと
おしゃべりを楽しむ

関係者同士の一体感がチカラとなる!!

● ファニチャー+ α がもつチカラ

● ものづくり(プロセス) がもつチカラ

ワークショップ「活動拠点を考えよう！」

Step①

これまで交わされてきた議論等を振り返る：目的の整理と確認

Step②

活動拠点が利活用されるシーンを想像する：使われ方の検討

Step③

活動拠点整備がもたらすチカラを抽出する：必要性の有無

ワークショップ「活動拠点を考えよう！」

Step①

これまで交わされてきた議論等を振り返る

目的の整理と確認

個人ワーク(ポストイット)→グループワーク(模造紙)→グループ発表(口頭)

ワークショップ「活動拠点を考えよう！」

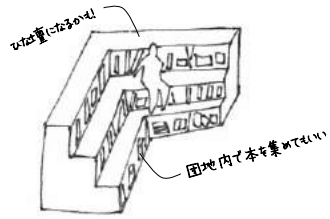
Step②

活動拠点が利活用されるシーンを想像する

使い方の検討

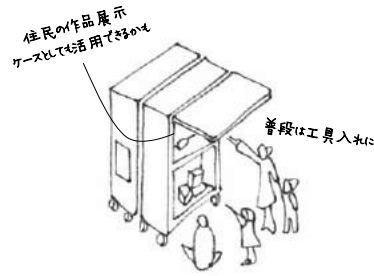
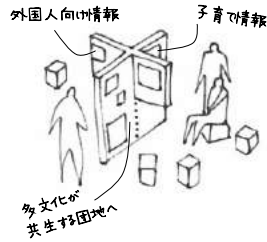
個人ワーク(ポストイット)→グループワーク(模造紙)→グループ発表(口頭)

菱野ベース 仕掛けコレクション (アクティビティ発想シート)

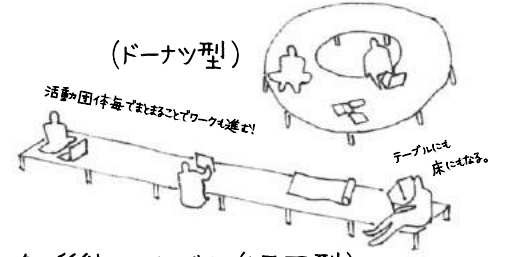


階段型ブックボックス

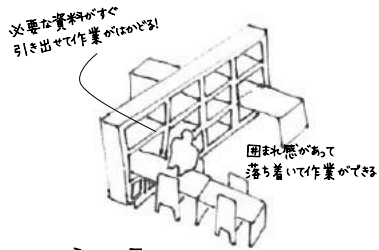
十字型ディスプレイボード



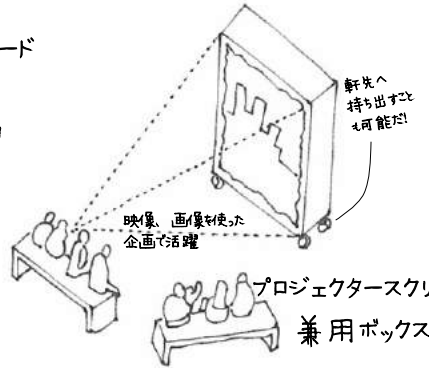
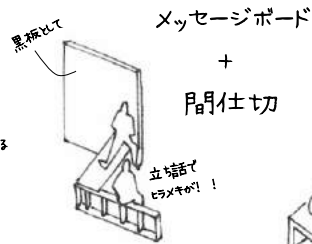
移動式多機能道具箱



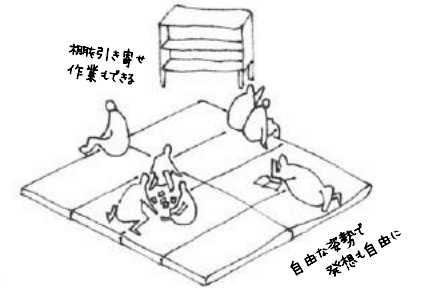
多機能小上がり (短冊型)



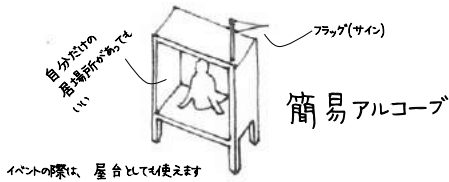
シェルフ + デスク



ミニ・ステージ
兼用ベンチ

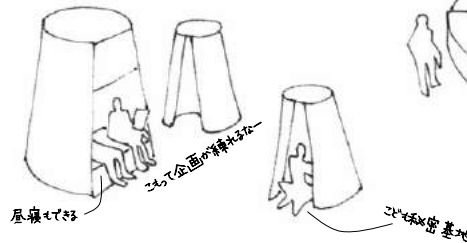
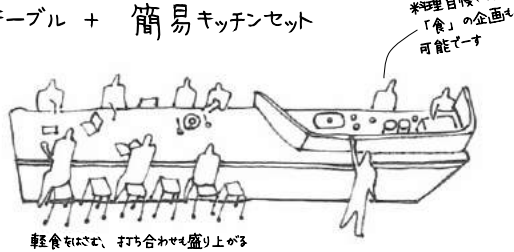


床座置きタミ

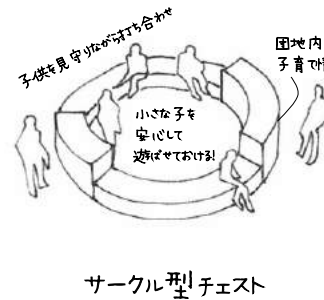


簡易アルコーブ

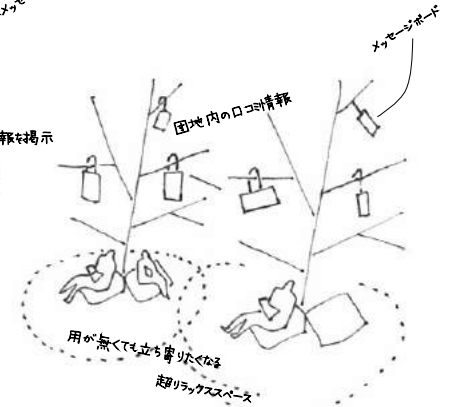
大テーブル + 簡易キッチンセット



かまくら風(シェルター)



サークル型チェスト



ツリー型ディスプレイ + クッション + カーペット

ワークショップ「活動拠点を考えよう！」

Step③

活動拠点整備がもたらすチカラを抽出する

必要性の有無

まとめ

【今後のワークショップ_予定】

ワークショップ「活動拠点を考えよう！」

第2回ワークショップ

実際の空間で「仕掛け」が利活用されるシーンを想定する
→仕掛けの精度を高める

第3回ワークショップ

実際に設定された「仕掛け」で何が出来そうかを提案する
→仕掛けを使ったプログラムの検討